

恐怖教育

原民喜

青空文庫

ぜんまい
薇仕掛で畳の上を這ふ象の玩具はガリガリと厭な音を立てた。

正三はわーと泣き出した。すると、兄姉達は面白がつて一勢に笑った。母が叱ると、意地の悪い兄は薇を巻いたまま戸棚に収めた。象はガリガリ戸棚のなかで暴れた。(ガリガリガリと云ふ音は、その頃正三の齧齒むしばを切り取った厭な機械の音に似てゐた。)

兄が石から火が出ると云つて、手斧で花崗石を叩きつけた。その瞬間、彼の膚を冷やりとさす音と、石の粉と怪しい焰が飛んだ。何を思つてか兄は手斧の刃でギリギリギリと石を小擦り出した。正三は耳を掩つて逃げた。

或る夜、兄が正三に便所の手洗鉢の側にある訳のわからない植

物を指差して、「あそこは怖いぞお。」と脅した。その植物の葉には水がかかかってゐて、繊細い月の光を受けてゐた。その茫とした光が目球のやうに正三には想へた。その頃から正三はやたらにものを怖がり出した。獅子の笛、あんまの笛、猫の眼、老婆のおはぐろ、街をつつ走る狂女、仏壇、押入れ、到るところに正三を脅しつけるものがゐた。

——正ちゃんは昨夜どんな夢をみたの。と姉が訊ねた。

——大根の夢、茄子の夢、瓢箪の夢。

姉は嬉しげに嘖き出してしまった。

——そんな夢ってないわ、大根がどうしたの、瓢箪が何か云つ

たの。

——どうしたのかももう忘れた。

——今に怖い夢をみるよ。 さう云つて姉は眼を凄く見ひらいた。

——厭だ、厭だ、そんな怖い夢なんか。

——よく私の云ふことを肯かないと怖い夢をみせるよ。

——厭だ、厭だ、みせてはいらない。

——ええ大丈夫よ、ほら、あそこの抽^{ひきだし}匣に鍵かけて収めて置

くからもう大丈夫よ。

近所の床屋に唾者が来てゐると云ふので、正三は兄と一緒に見に行った。唾者は生つ白い顔をして、どうも忿つてゐるやうな顔

だ。へんてこな手つきで頻りに何かしてゐた。正三は怖々覗いては逃げ、逃げては覗いた。

その罰で到頭彼は怖い夢をみた。気の狂った女が形相変へて正三を追駈けて来る。正三は逸散に家にむかつて逃げるのだが、家までがなかなか遠い。やっと家の附近まで来たと思ふと、そこにあつた一本の樹木がによつと枝を出して邪魔をした。その枝の下を潜つて玄関に飛び込むと、ピッタリ障子を立てた。狂女は無念さうに障子を睥むと、そこへ腰を下して、ガタガタ障子を足蹴にし出した。ガタガタと障子の内側では正三が慄へてゐた。

青空文庫情報

底本：「普及版 原民喜全集第一巻」芳賀書店

1966（昭和41）年2月15日初版発行

入力：蔣龍

校正：伊藤時也

2013年1月24日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

恐怖教育

原民喜

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>